



巻頭言 安曇野のまちづくりは新しいステージに

今回の定例会最終日に宮澤市長が引退を正式に表明しました。3期12年の市政評価は分かれるところですが、まずはお疲れ様でしたとお伝えしたい。80歳越えの市長の引退により、現職の市議会議員も新しい時代の流れを感じ取り、引退へ向かう方も多いのではないのでしょうか。市長選と同日程で行われる市議選に今回初めて挑戦表明をしている若い世代や子育て世代が複数いますが、上の世代の方たちに抜けてもらうことで、新人も当選しやすくなります。あとは若手にお任せください、とお伝えしたいです。

私が議員になったのは、政治を市民にとって、もっと身近にしたかったからです。2016年からは議員と市民とが政治や議会と一緒に学ぶ政治塾を小林純子議員と始めました。政治家は特別な存在ではなく、普通の人たちが普通に当たり前のように議員になっていく流れを創り出したかったからです。今回の挑戦者には政治塾に関わった人たちも居て嬉しい限りだし、新人が多数挑戦する市議選は、本来の機能を持った議会に変える千載一遇のチャンスです。安曇野市議会が行政の議案にストップをかけたことはこの8年間で1度だけです。あとは修正案の採択も無し。議会と

しての政策提案もまだおぼつかないです。議会の二大機能である行政のチェック機能と政策提案機能を強めた議会にして、次期は議会発案による政策条例をつくりたいと考えています。

安曇野市民のみなさん、新しい挑戦者と安曇野市議会が政策立案集団へと変わっていくことを期待してください。もちろん、私も残りの議員任期を全うして、その中で堂々と次なる自分の政策を掲げていきます。10月に行われる市長選・市議選により安曇野市のまちづくりは新しいステージを迎えます。

洞合自然公園隣地の太陽光パネル問題その後



福祉教育委員会で洞合自然公園の視察

洞合自然公園の隣地にある林を伐採して太陽光パネルを設置する民間事業者の申請は、業者による住民説明会(5/23)が行われました。その場で地元住民中心に、自然環境の悪化や



みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政が市民にとって身近になるために、虹(= Rainbow レインボウ)の架け橋となるよう活動報告をお届けします。望三郎の活動はブログやフェイスブックでもどうぞ。→「増田望三郎」で検索。

自然公園隣地にはパネルはそぐわないなど、反対の意見が多数出されました。また住民団体「洞合の里山を未来の子どもたちに残す会」が市長に提出した(6/16)パネル設置反対の署名は6000筆を超え、この開発が住民の同意が得られていないことを示しました。

一方同会が議会に陳情した「黒沢洞合自然公園の更なる充実と活用を求める陳情」は、福祉教育委員会で現地視察を行い、その後の審議で継続審査となりました。但し、公園の拡充については既に市が用地確保のための予算を計上しており、行政答弁も「具体的な計画の検討を始める。」との答弁を引き出し、洞合自然公園を市のまちづくりにおいて、さら

に活用していこうという方向が明確になりました。

参考) あづみのテレビのニュース動画



市政報告や望三郎議員の活動を動画で発信！

望三郎議員の市政チャンネルをYouTubeで作りました。これからどんどんアップしていくので、ご覧ください。



サポーターからの応援メッセージその29



しゅうほう 田村 秀峰さん(穂高／大工見習い・安曇野予祝隊)

僕が安曇野が好きな理由。いっぱいあるけど、その大きな一つに増田望三郎という人間の存在がある。彼の近くに住めること、彼に相談できること。これは僕にとっての安曇野の魅力の大きな一つだ。そんな望さんが市議会議員であることも安曇野の大きな魅力の一つだ。彼が市政を身近なものにしてくれ、市民の抱える大小色んな問題を親身になって感じ考え抜き、ときに市へと働きかけてくれる。そして、そんな望さんを市議会議員として選り票を入れる人がいっぱいいることも安曇野の魅力だ。望さんの魅力もいっぱいある。その中の一つが、彼を知る人なら誰もが知る対話力だ。彼の大きな懐で全てをまず受け入れ、それを踏まえて彼の意見や考えを述べてくれる。僕の周りには古いやスピリチュアル等の目に見えない世界を重んずる人も多くいる。そんな不思議な世界観の話でも、まずは目を逸らすことなく真剣に聞き入れてくれるのだ。何かを決めるとき、彼の営むシェアハウスでもお宿でも、まずはしっかりと話し合いが行われる。望さんはまず相手の意見を聞き、違いを受け入れる努力をする。そんな望さんみたいな人間になること、そして対話をもって物事進め違いを受け入れる人を増やすことが僕の夢だ。

3月定例会の一般質問

《質問 1》政策が先か、アウトソーシングが先か ～市の民間活力導入のあり方～

【解説】行政は市民サービスの向上と効率的な運営のために、官民連携や民間活力の導入を積極的に進めています。しかし官民連携には「安曇野市としてこの分野をもっとこんな風に進めていきたい。なので民間の力を借り、発揮してもらって進めていく。」という市の明確な狙いと政策が必要です。事業者への丸投げや依存ではなく、主体性を持ち、政策を進めるのは行政である、そんな内発的発展の考え方をベースに持つ必要があります。

また既存業務のアウトソーシングだけでなく、2手先、3手先のまちづくりのために、新たな価値を創造する政策についても質問しましたが、明確な行政答弁はありませんでした。新たな価値の創造を生み出す政策こそ、民間事業者の力を借りる時です。具体的には、次の一般質問で提案しました。

↓↓↓

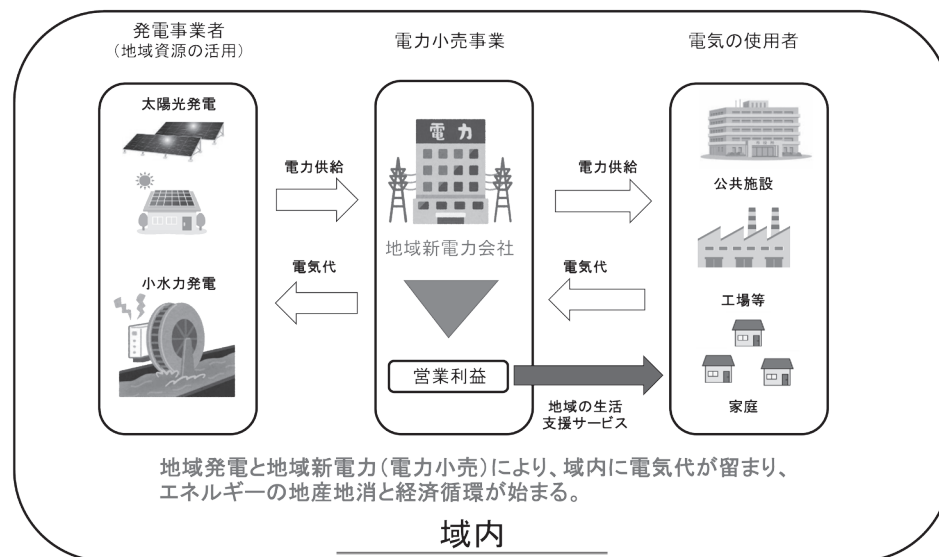
《質問 2》自治体新電力にチャレンジ

【解説】私の中でもエネルギー自給はずっと問題意識がありました。安曇野に移住する前の東京時代は、食べ物はスーパーで買って消費するだけ。安曇野に移住してからは、お米や野菜を自給できるようになって、暮らしの充実度はあがり、経済や災害などの社会情勢による影響が少なくなりました。この自立した状態をエネルギーにおいてもできないか。それも個人レベルの取り組みだけでなく、安曇野市(または松本エリア)全体でエネルギーを自給することで、食と同じように他に依存する要素を減じ、足腰の強い持続可能な安曇野市になります。その方策が「地域新電力*」、

「自治体新電力」です。

※地域新電力とは…地域内の発電電力を最大限に活用し主に地域内の公共施設や民間企業、家庭に電力を供給する小売電気事業のこと。その中で特に自治体が出資するものを「自治体新電力」という。

地域新電力のイメージ図



望市議 2016年から電力小売の完全自由化で、市も新電力に切り替えた。どれだけコスト削減できたのか。

行政 新電力により約5,600万円の削減。

望市議 新電力が域外の会社である限り、市民や事業者の電気代は域外に出ていく。環境省の地域経済循環分析ツールで試算すると本市は電気代約39億円が域外に出ている。これを域内に留めて次の投資、生産、消費につなげる手法として地域新電力を進められないか。メリットは①ユーザーの電気料金が域内に留まる②事業雇用の創出③エネルギーの地産地消④地域資源を生かした自然エネルギーで脱炭素化⑤災害時対応がある。

行政 新電力は経営が順調なケースばかりではなく、より慎重にならざるを得ない。多額の投資をせず、どれだけ電力の地産地消につなげられるかも課題。自治体新電力で公金を投資する場合、しっかりとした設立趣旨が必

要で、多数の市民が賛同しなければならない。望市議 地域で生産した自然エネルギーを地域で消費できる計画をつくるなど、地域新電力は脱炭素化の環境政策でも重要なプレーヤーだ。市はゼロカーボンをどう進めるのか。

地域新電力で

- ・エネルギーの地産地消
- ・域内経済循環
- ・脱炭素化

を進める

行政 カarbon・ニュートラルは省エネだけでは実現できず、エネルギーを生み出すことが必要となる。環境基本計画の中間見直しの中で自治体の新電力についても研究する。【まとめ】私は洞合自然公園隣地の太陽光パネル設置には反対していますが、この問題に向き合う中で、我が市にエネルギー戦略が無いことが問題の本質ではないかと考え至りました。計画が無い→無計画→無秩序となり、地元のことを全く知らない県外業者が利益優先のために安曇野に侵食してくる。エネルギーの自給計画とアクションを、市が主体性を持って進めていけば、それも防げるのではないのでしょうか。「依存すれば、翻弄される。翻弄されたくないから、自立する」ということです。食糧自給、エネルギー自給、域内での経済循環が進む、そんな自立した足腰の強い自治体づくりを目指します。

